

新型コロナウイルス対応緊急支援助成 事業計画（実行団体）

※それぞれの枠の大きさは変更可です。ただし、全体のページ数は 4 ページを超えないようにしてください。

事業名（主）	(20 字以内) 食と遊びによる子育てサポート事業
事業名（副） ※任意	(30 字以内) しんどい状況で生きる子どもたちとつながりニーズに応える。

実行団体名	認定 NPO 法人 CPAO
資金分配団体名	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

優先的に解決すべき社会の諸課題

※該当する領域に☑（チェック）を入れてください（複数可） ※左側でチェックした領域に対応する分野に☑を入れてください（複数可）

領域		分野	
☑	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	☑	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
		☑	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
		☐	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
☑	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	☐	④働くことが困難な人への支援
		☑	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
☑	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	☐	⑥地域の働く場づくりの支援
		☑	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他団体として解決したい と考えている社会の課題	☑	(50 字程度) 社会や大人による「貧相な子ども観」の解消。
--------------------------------------	---	--------------------------------

実施時期	2020 年 10 月 ～ 2021 年 9 月
事業対象地域	☐ 全国 ☑ 特定地域（大阪府及び近郊地域）
事業対象者 （事業で直接支援する対象者と、 その他最終受益者を含む）	経済的・精神的に厳しい状況に置かれている親子
事業対象者人数（想定）	子ども 300 人、大人（親） 100 人

I.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
(200 字程度) 子どもたちの貧困や虐待を無くし、変わりゆく社会の中において生き延びゆくために、シンプルであっても豊かな暮らしのスタイルを提示・提案・提供すること。
(2)申請団体の概要・事業内容等
(200 字程度) ○食：毎週 2 回 100～150 食の惣菜等を関係性のある家庭に宅食・宅配。 ○学び：コロナ禍以前は毎週 1 回「しゅくだいカフェ」。学習の場を提供。 ○遊び：月 1 回の「プレーパーク」。季節行事や長期休み毎の自然体験活動等も実施。 ○暮らし：隔週末や SOS 時に和歌山県橋本市の里山活動拠点でお泊り会。 ○その他：アウトリーチ、相談・サポート、調査・研究・提言等。 ○実績：活動回数 195 回（大阪市生野区）、里山体験 84 日間（和歌山県橋本市）、食事提供 延べ 3,000 人・4,160 食

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
(800 字程度) 私どもは 2/27 の休校措置の発表と同時に子ども食堂展開は中止し、「ホットミールプロジェクト」として、あたたかいごはんや食材を持って関係家庭を訪問していきました。 そこで聞いたのが、「仕事が無くなった」「給食が無くなり、食べるものが無い」「子どもと過ごす時間が増え、親子共にストレスが溜まって揉めることが多くなった」という声であり、親子間の口争いで実際に自殺未遂に至るケースまでもありました。 当初は緊急食材のニーズも高く、サポートもそこに注力していましたが、コロナ禍の生活の変化には次第に適応能力の低さなどから安定しなくなる問題が浮上してきました。 活動を早いうちから切り替えたこともあり、困窮内容の変化をつぶさに観察することができたことから、そこで共通して求められているのは緊急的な食材支援ではなく、普段から欠如していたがコロナ禍により問題が視覚化されていた家事・育児のサポートに尽きるということが分かってきました。 3 月以降、集合型（子ども食堂）から個別対応型（宅食等を通して個別訪問による相談や家事・育児サポート）に切り替えて活動を続け、そして緊急事態宣言も解除となり、with コロナの生活が始まり出した中で上がってきた声です。 「緊急時ということもあり、レトルト食品や缶詰、インスタントラーメンなどを送ってくださる団体もあり、ありがたないことはないのですが、やはり私たちみたいな親子はこの先もずっとそういったものを食べていけないといけなんでしょうか…」 「お弁当を配給していただくこともあり、助かってはいるのですが、実はそういった市販のお弁当は普段からいつも食べていまして…。たまには子どもたちに栄養の摂れるものや、ごちそうを食べさせてあげたいです。」 社会で問題が浮上すると、経済的・精神的に厳しい状況に置かれてしまう方々は、そこでの支援にさえ、その歪を受けやすくなります。持続可能でニーズに応えられるサポートの必要性を感じます。

Ⅲ.事業内容

(1)事業の概要
<p>(300 字程度) ○週 3～4 回、200 食の宅食・宅配を通し、各家庭の家事サポートを行う。そこでの子どもたちへの食や遊びの提供から各々の家庭内の問題に着手し、家事・育児サポートを行っていく。(ホットミールプロジェクト) (子育てサポーター事業)</p> <p>○隔週週末は親子を和歌山県橋本市の里山活動拠点に招待してお泊り会を行う。より関係性を深め、サポートへとつなげていく。(週末別荘計画)</p> <p>○他の週末は、食や遊びに関する各種イベント等に子どもたちを参加させ様々な機会提供を行う。(CPAO Kitchen (CPAO くらぶ))</p> <p>○仮称キッチン&パークの設置により、いつでも子どもたちを預かったり、相談を受けたり、食事提供ができる拠点(イオン海老江店を検討中)を確保し、アウトリーチ活動の効果を高める。</p>

(2)事業実施後(1年後)以降に目標とする状態
<p>(200 字程度)</p> <p>現状、将来に希望を見出し切れていない子どもたちが少なくない中、子どもたちの育ちをサポートする大人や環境との出会いを通して、少しでも希望を持って生きていく意思・スタイルを発見してもらおう。</p>

(3)今回の事業実施で達成される状態(アウトプット)	<p>○宅食や宿泊・遊びへの参加などを通して、より生活に入り組んだ問題への着手を行える。</p> <p>○いつでも駆け込める拠点の設置により、アウトリーチを積極的に行える。</p>
実施・到達状況の目安とする指標	<p>○つながる子どもの人数と食事提供数。</p> <p>○子育てサポーターの出動回数。</p>
把握方法	<p>定期的なヒアリング</p> <p>子育てサポーターによる、家事・育児サポート時のアンケート</p>
目標値/目標状態	<p>子ども 300 名・大人(親) 100 名に対して年間 10000 食の提供。</p> <p>子育てサポーターの出動回数 100 回</p>
目標達成時期	2021 年 9 月

(4)活動	時期
子どもたちへの宅食・相談とそこからの家事・育児サポート (ホットミールプロジェクト) (子育てサポーター事業)	2020 年 10 月～2021 年 9 月
里山活動拠点での宿泊受け入れ(週末別荘計画)	2020 年 10 月～2021 年 9 月
各種イベントへの参加機会提供	2020 年 10 月～2021 年 9 月
仮称キッチン&パークの設置	2020 年 9 月～2020 年 10 月
キッチン&パークの稼働(アウトリーチ、子ども預かり、相談受付)	2020 年 10 月～2021 年 9 月

(5) 事業の今後の展開（今後、団体が目指す事業展開）
 (200 字程度) なるべく自作や余剰分の安全で安心な食材を使用し、安価で豊かな食を安定して提供できるモデルの構築。困ったときにいつでも「助けて」と言える体制と関係性の構築と場所の運営。

(6) 日々の事業実施や組織運営において子どもの安心・安全をどのように確保していますか？
 (子どものセーフガーディングの取り組みなど)
 (200 字程度) 活動の振り返りは毎日行い、スタッフ間でも必要な情報共有や管理、子どもの権利が守られる体制を徹底している。また外部講師などによる学びの機会も作り、ひとりひとりの子どもにも複数のスタッフが定期的にヒアリングを行い、声をあげやすくする取り組みに徹している。

(7) 子どもへの支援活動を行う際に、団体として、留意・心がけているポイント。（活動における子どもの役割など）
 (200 字程度) 子どもの権利条約にも示される、生きる、育つ、守られるを食や遊びや宿泊（生活体験）の中でサポートするが、さらに参加についてもそれぞれのニーズのヒアリングにより出来る限りの機会提供を行っている。

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	団体職員、雇用・契約社員、ボランティアに加え、就労サポートが必要なお母さん方のトレーニング的な受け入れも行っている。
(2)他団体との連携体制	地域の連携団体や区社協、食材提供やキッチン&パーク事業に関しては東部市場、黒門市場などの卸売市場や支援企業が 15 社。
(3)想定されるリスクと管理体制	相談内容などの情報漏洩：職員での管理。他スタッフへのセキュリティー徹底 調理関係（食中毒など）：食品営業許可の取得済。

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無		
コロナウイルス感染症に係る事業		
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動している（予定も含む）	<input checked="" type="checkbox"/> 有り	「有り」の場合その詳細
	<input type="checkbox"/> 無し	ゴールドマンサックス 子育てサポーター育成事業（2020年3月～8月）
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない。	<input checked="" type="checkbox"/> 無し	※有の場合、選定の対象外となります。（公募要領：助成方針参照）

(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績
 (200 字程度) 特になし。